巻　頭　言

加古川市民病院機構　加古川中央市民病院は 2016 年にオープンして以来、東播磨圏域の高度急性期・急性期医療を担ってまいりました。開院時より、当院の運営に格別のご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。加古川中央市民病院は 2016 年の開院以来、600 床の病床で、消化器センター、心臓血管センター、こどもセンター、周産母子センター、がん集学的治療センターを中心に 33 診療科の総合力で高度専門医療、救急医療に取り組んでまいりました。2023 年 1 月からは、新たに呼吸器センターをオープンし、現在は 6 つの診療センターを中心に 34 診療科が協力し、高度専門医療に取り組んでいます。2023 年度は手術件数 8800 件、救急車受け入れ件数 8900 件の実績となり、地域の急性期医療の拠点としての役割を果たしています。新型コロナウィルス感染症の拡大や光熱費、医療材料、医薬品費の高騰、医師の働き方改革など病院を取り巻く環境は厳しい状況ですが、安全で高い質の医療を提供し、地域の皆様から信頼されるよう職員が一丸となって取り組んでいます。2023 年末には病院機能評価の認定を受け、さらに安全で質の高い医療の提供を目指しています。

加古川中央市民病院の基本方針の一つに「優れた医療人を育成します」と掲げています。近年、医療は目覚ましい進歩を遂げており、安全で高度な医療を提供するためには多職種の連携と教育体制の充実が欠かせません。当院では病院の機能を担う医療人の育成に努めており、病院のスタッフ数は増加し、診療機能は拡大しています。日々の忙しい診療の中で、学術活動を推進することはエネルギーが必要です。しかし、各職員やグループがリサーチマインドを持って診療、教育に取り組むことは、最先端の医療を提供するためには欠かせません。最新のエビデンスを学び、実施した医療の成果を学会や論文として発表し、外部からの評価を受けることが重要です。加古川中央市民病院の学術誌は、病院の概要に加えて、その年度の職員の論文発表や学会発表の実績をまとめたものです。これらの成果は、日々の診療に加えて、病院の診療、教育、研究における努力の成果の賜物であり、今後の病院の発展のための指標となるものです。

ぜひご参考にしていただき、ご意見ご指導をいただけましたら幸いです。

2024 年 8 月

加古川中央市民病院

院長　平 田 健 一